2014
平成26年6月 -2
今月の情報

温もりを届けたい、手からこころへ・・・・・・・・・
たまちゃん通信 54号

E-mail:honbu@otedama.jp
● お問い合わせなどメールをご利用ください
http://www.otedama.jp
● たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部
〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302
FAX：0897-32-0311

日野原先生の絵本『だいすきな おばちゃん』絵本作家としてのデビュー作に「お手玉」も登場

絵本作家デビュー

聖路加病院名誉院長の日野原重明先生が、102歳にして絵本作家としてデビューしました。絵本の題名は『だいすきな　おばあちゃん』（朝日新聞出版）です。
「子どもが初めて経験する、大切な人との別れ。心からのありがとうを伝えて欲しいと思います」という気持ちから生まれた絵本です。
そして、日野原先生は、絵本に寄せる思いを次のようにいっています。
「人間、いつかはみんな最後がきて死ぬものです。自宅で亡くなってゆくお年寄りを看取るということは、子どもが「死」を知り、「死」について考えるきっかけとなるかけがえのない体験です。この絵本が子どもたちへのよきプレゼントになることを、私は願っています」
また、主人公のマリちゃんについては、次のように紹介しています。
「マリちゃんには、だいすきなおばあちゃんがいます。
おばあちゃんは、指のお話をしてくれたり、おはしの持ちかたを教えてくれます。
でも、おばあちゃんは　だんだん体が弱って……
私の子どもの時代を　思い出しながら書きました。」

102歳で、なぜ、絵本作家デビューをしたかということについては、「あとがき」に、次のように書かれています。
「（略）朝日新聞土曜版別刷り「ｂｅ」に連載されている私のエッセイ「あるがまゝ行く」の読者の皆さんに、私は大胆にも絵本作家になると宣言しました。宣言したということは訂正したり、取り消すことができないということです。　幸いなことに名画家岡田千晶さんの協力を得て、２年の歳月を経た今、私はようやくその言葉を実行にに移すことができました。（略）」

絵本は、マリちゃんとおばあちゃんが縁側であや取りをしたり、お手玉を教えてもらったり、ねたきりになったおばあちゃんと一緒に歌ったり、する場面を、やわらかいタッチのほのぼのとした絵で表現されています。

小さいお子さんに読んであげたい絵本です。

この絵本は、絵本講師の資格を持つ和歌山のお手玉の会会長の森勝代さんからいただきました。森さんは、この絵本を使って保育園の園児に読み聞かせをしたり、お手玉を教えたりしています。

何事にも探究心を。
それがあなたを若々しくします。

いつかは誰もが死を迎えます。
そのことは子どもでも知っておくべきでしょう。

健康雑誌【いきいき】
2014年6月号より

●この絵本にはおばあちゃんと子供たちが一緒にお手玉をしている場面が描かれています。

日野原先生の絵本
『だいすきな　おばあちゃん』
小さなお子さんに読んであげたい絵本です